

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.2.8-14

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

11:20 それから、イエスは、数々の力あるわざの行なわれた町々が悔い改めなかったの
で、責め始められた。

11:21 「ああコラジン。ああベツサイダ。お
まえたちのうちで行なわれた力あるわざが、
もしもツロとシドンで行なわれたのだったら、
彼らはどうの昔に荒布をまとい、灰をかぶっ
て悔い改めていたことだろう。

11:22 しかし、そのツロとシドンのほうが、
おまえたちに言うが、さばきの日には、まだ
おまえたちよりは罰が軽いのだ。

11:23 カペナウム。どうしておまえが天に上
げられることがありえよう。ハデスに落とさ
れるのだ。おまえの中でなされた力あるわざ
が、もしもソドムでなされたのだったら、ソ
ドムはきょうまで残っていたことだろう。

11:24 しかし、そのソドムの地のほうが、お
まえたちに言うが、さばきの日には、まだお
まえよりは罰が軽いのだ。」

11:25 そのとき、イエスはこう言われた。
「天地の主であられる父よ。あなたをほめた
たえます。これらのことを、賢い者や知恵の
ある者には隠して、幼子たちに現わしてくだ
さいました。

11:26 そうです、父よ。これがみこころにか
なったことでした。

11:27 すべてのものが、わたしの父から、わ
たしに渡されています。それで、父のほかには、
子を知る者がなく、子と、子が父を知ら
せようと心に定めた人のほかは、だれも父を
知る者がありません。

11:28 すべて、疲れた人、重荷を負っている
人は、わたしのところに来なさい。わたしが

あなたがたを休ませてあげます。

11:29 わたしは心優しく、へりくだっている
から、あなたがたもわたしのくびきを負っ
て、わたしから学びなさい。そうすればた
ましいに安らぎが来ます。

11:30 わたしのくびきは負いやしく、わたし
の荷は軽いからです。」

コラジン、ベツサイダ、カペナウムの人々が悔
い改めもなく信仰もないので、それをイエス様は
責められました。ツロ、シドン、ソドムも罪の町
でしたが、直接イエス様のみわざを見たのではな
いし、教えを聞いたのわけではありません。

見ていながら、知っていながら信じないのは、
やはり責められるのです。私たちも、“分かっ
ている、知っている”だけで終わらせないで、信
じて従うものとなりましょう。

その点、「幼子」のような心の持ち主は、主に
喜ばれます。どういう人かといいますと、それは
自分の弱さを取り繕わない人です。また自分を立
派に見せるよりも、頼る人であって、正しい生き
方は神様に頼るということです。

ですから幼子のように、「疲れている」「重荷
を負っている」と正直に認めて、イエス様のもと
にいきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願い
など）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど
の部分の主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 火曜

マタイ

12:1 そのころ、イエスは、安息日に麦畑を通られた。弟子たちはひもじくなったので、穂を摘んで食べ始めた。

12:2 すると、パリサイ人たちがそれを見つけ、イエスに言った。「ご覧なさい。あなたの弟子たちが、安息日にははならないことをしています。」

12:3 しかし、イエスは言われた。「ダビデとその連れものたちが、ひもじかったときに、ダビデが何をしたか、読まなかったのですか。12:4 神の家にはいて、祭司のほかは自分も供の者たちも食べてはならない供えのパンを食べました。

12:5 また、安息日に宮にいる祭司たちは安息日の神聖を冒しても罪にならないということ、律法で読んだことはないのですか。

12:6 あなたがたに言いますが、ここに宮より大きな者がいるのです。

12:7 『わたしはあわれみは好むが、いけにえは好まない。』ということがどういう意味かを知っていたら、あなたがたは、罪のない者たちを罪に定めはしなかったでしょう。

12:8 人の子は安息日の主です。」

12:9 イエスはそこを去って、会堂にはいられた。

12:10 そこに片手のなえた人がいた。そこで、彼らはイエスに質問して、「安息日にいやすことは正しいことでしょうか。」と言った。これはイエスを訴えるためであった。

12:11 イエスは彼らに言われた。「あなたがたのうち、だれかが一匹の羊を持っていて、もしその羊が安息日に穴に落ちたら、それを引き上げてやらないでしょうか。」



12:12 人間は羊より、はるかに値うちのあるものでしょう。それなら、安息日に良いことをすることは、正しいのです。」

12:13 それから、イエスはその人に、「手を伸ばしなさい。」と言われた。彼が手を伸ばすと、手は直って、もう一方の手と同じようになった。

12:14 パリサイ人は出て行って、どのようにしてイエスを滅ぼそうかと相談した。

12:15 イエスはそれを知って、そこを立ち去られた。すると多くの人がついて来たので、彼らをみないやし、

12:16 そして、ご自分のことを人々に知らせないようにと、彼らを戒められた。

12:17 これは、預言者イザヤを通して言われた事が成就するためであった。

12:18 「これぞ、わたしの選んだわたしのしもべ、わたしの心の喜ぶわたしの愛する者。わたしは彼の上になしにわたしの霊を置き、彼は異邦人に公義を宣べる。

12:19 争うこともなく、叫ぶこともせず、大路でその声を聞く者もない。

12:20 彼はいたんだ葦を折ることもなく、くすぶる燈心を消すこともない、公義を勝利に導くまでは。

12:21 異邦人は彼の名に望みをかける。」

安息日の規定は救い主の聖なることを理解するためのものでした。今、その救い主イエスがいるのですから、イエス様を喜び、頼るべきでしたが、パリサイ人はあくまでも律法の規定にしばられていました。

私たちも生きた主イエスと日々交わりましょう。そして律法よりも、喜びで主の御心を聞きましよう。主は「いたんだ葦」「くすぶる燈心」のように、問題の多い私たちをも愛してください。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶10日 水曜

マタイ

12:22 そのとき、悪霊につかれた、目も見えず、口もきけない人が連れて来られた。イエスが彼をいやされたので、そのおしはものを言い、目も見えるようになった。

12:23 群衆はみな驚いて言った。「この人は、ダビデの子なのだろうか。」

12:24 これを聞いたパリサイ人は言った。「この人は、ただ悪霊どものかしらベルゼブルの力で、悪霊どもを追い出しているだけだ。」

12:25 イエスは彼らの思いを知ってこう言われた。「どんな国でも、内輪もめして争えば荒れすたれ、どんな町でも家でも、内輪もめして争えば立ち行きません。」

12:26 もし、サタンがサタンを追い出していて仲間割れしたのだったら、どうしてその国は立ち行くでしょう。

12:27 また、もしわたしがベルゼブルによって悪霊どもを追い出しているのなら、あなたがたの子らはだれによって追い出すのですか。だから、あなたがたの子らが、あなたがたをさばく人となるのです。

12:28 しかし、わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです。

12:29 強い人の家にはいって家財を奪い取るうとするなら、まずその人を縛ってしまわないで、どうしてそのようなことができましょうか。そのようにして初めて、その家を略奪することもできるのです。

12:30 わたしの味方でない者はわたしに逆らう者であり、わたしとともに集めない者は散らす者です。



12:31 だから、わたしはあなたがたに言います。人はどんな罪も冒洗も赦していただけです。しかし、聖霊に逆らう冒洗は赦されません。

12:32 また、人の子に逆らうことばを口にする者でも、赦されず。しかし、聖霊に逆らうことを言う者は、だれであっても、この世であろうと次に来る世であろうと、赦されません。

12:33 木が良ければ、その実も良いとし、木が悪ければその実も悪としなさい。木のよしあしはその実によって知られるからです。

12:34 まむしのすえたち。おまえたち悪い者に、どうして良いことが言えましょう。心に満ちていることを口が話すのです。

12:35 良い人は、良い倉から良い物を取り出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を取り出すものです。

12:36 わたしはあなたがたに、こう言いましょう。人はその口にするあらゆるむだなことばについて、さばきの日には言い開きをしなければなりません。

12:37 あなたが正しいとされるのは、あなたのことばによるのであり、罪に定められるのも、あなたのことばによるのです。」

「わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ている」と、イエス様は言われました。つまり、主イエスのみわざは、旧約聖書の預言の成就であるということです。

しかし信じない者は、どんなにみわざを見ても信じません。聖霊が心に語っておられるのに、それに「逆らう」なら、その人には救いのチャンスはないのです。ですから「赦されません」という

ことになってしまいます。

主のみわざを思い、「赦され」て救われた今でも聖霊の語り掛けに対して、常に従順でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたその部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



12:38 そのとき、律法学者、パリサイ人たちのうちのある者がイエスに答えて言った。「先生。私たちは、あなたからしるしを見せていただきたいのです。」

12:39 しかし、イエスは答えて言われた。「悪い、姦淫の時代はしるしを求めています。だが預言者ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられません。」

12:40 ヨナは三日三晩大魚の腹の中にいましたが、同様に、人の子も三日三晩、地の中にいるからです。

12:41 ニネベの人々が、さばきのときに、今の時代の人々とともに立って、この人々を罪に定めます。なぜなら、ニネベの人々はヨナの説教で悔い改めたからです。しかし、見なさい。ここにヨナよりもまさった者がいるのです。

12:42 南の女王が、さばきのときに、今の時代の人々とともに立って、この人々を罪に定めます。なぜなら、彼女はソロモンの知恵を聞くために地の果てから来たからです。しかし、見なさい。ここにソロモンよりもまさった者がいるのです。

12:43 汚れた霊が人から出て行って、水のない地をさまよいながら休み場を捜しますが、見つかりません。

12:44 そこで、『出て来た自分の家に帰ろう。』と言って、帰って見ると、家はあいていて、掃除してきちんとかたづいていました。

12:45 そこで、出かけて行って、自分よりも悪いほかの霊を七つ連れて来て、みなは入り込んでそこに住みつくのです。そうすると、その人の後の状態は、初めよりもさらに悪く

なります。邪悪なこの時代もまた、そういうことになるのです。」

12:46 イエスがまだ群衆に話しておられるときに、イエスの母と兄弟たちが、イエスに何か話そうとして、外に立っていた。

12:47 すると、だれかが言った。「ご覧なさい。あなたのおかあさんと兄弟たちが、あなたに話そうとして外に立っています。」

12:48 しかし、イエスはそう言っている人に答えて言われた。「わたしの母とはだれですか。また、わたしの兄弟たちとはだれですか。」

12:49 それから、イエスは手を弟子たちのほうに差し伸べて言われた。「見なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。」

12:50 天におられるわたしの父のみこころを行なう者はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。」

多くの人が、神を信じることの根拠として「しるし」、すなわち不思議な出来事を期待します。それで惑わされる人が多いのです。偽の宗教は、人に取り入ろうとするため、欲望を満たすような「しるし」を強調し、それを求める人は自分のために宗教を渡り歩くようになります。これが「悪い、姦淫の時代」ということです。

自分の欲求のための信仰ではなく、主の御心が第一であり、そこに本当の幸いがあるということを通して、生きましょう。

ヨナも南の女王も、出来事としては特筆すべき「しるし」となるようなことでしたが、イエス様こそが「まさったもの」です。イエス様を愛して、イエス様の出来事と心に感じるができるかどうか。これが信仰のバロメーターを言ってもいいでしょう。

イエス様のことが分るような霊的感性は聖霊によって与えられます。単に心を「掃除してきちんと」片付けるだけでなく、聖霊に満たされて、聖

霊に従いましょう。

そのように「みこころを行う者」を、主イエスは「今日、姉妹、また母」と呼んでくださいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



13:1 その日、イエスは家を出て、湖のほとりにすわっておられた。
13:2 すると、大ぜいの群衆がみもとに集まったので、イエスは舟に移って腰をおろされた。それで群衆はみな浜に立っていた。
13:3 イエスは多くのことを、彼らにたとえで話して聞かされた。「種を蒔く人が種蒔きに出かけた。
13:4 蒔いているとき、道ばたに落ちた種があった。すると鳥が来て食べてしまった。
13:5 また、別の種が土の薄い岩地に落ちた。土が深くなかったので、すぐに芽を出した。
13:6 しかし、日が上ると、焼けて、根がないために枯れてしまった。
13:7 また、別の種はいばらの中に落ちたが、いばらが伸びて、ふさいでしまった。
13:8 別の種は良い地に落ちて、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結んだ。
13:9 耳のある者は聞きなさい。」
13:10 すると、弟子たちが近寄って来て、イエスに言った。「なぜ、彼らにたとえでお話しになったのですか。」
13:11 イエスは答えて言われた。「あなたがたには、天の御国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていません。
13:12 というのは、持っている者はさらに与えられて豊かになり、持たない者は持っているものまでも取り上げられてしまうからです。
13:13 わたしが彼らにたとえで話すのは、彼らは見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、また、悟ることもしないからです。
13:14 こうしてイザヤの告げた預言が彼らの

上に実現したのです。『あなたがたは確かに聞きはするが、決して悟らない。確かに見てはいるが、決してわからない。』

13:15 この民の心は鈍くなり、その耳は遠く、目はつぶっているからである。それは、彼らとその目で見、その耳で聞き、その心で悟って立ち返り、わたしにいやされることのないためである。』

13:16 しかし、あなたがたの目は見ているから幸いです。また、あなたがたの耳は聞いているから幸いです。

13:17 まことに、あなたがたに告げます。多くの預言者や義人たちが、あなたがたのしているものを見たいと、切に願ったのに見られず、あなたがたの聞いていることを聞きたいと、切に願ったのに聞けなかったのです。

イエス様は旧約聖書に預言された救い主であるということを示すために、多くの奇跡を行いました。神のみことばを信じる者は聖書をよく調べて、イエス様を信じましたが、中には奇跡のわざを求めて従う者も大勢いました。

これら人間本位の人々が区別されるために、イエス様はたとえを用いて話されたのです。まさに「耳のある者」でなければ、神の国の真理を知ることにはできないのです。私たちはこの弟子たちのように、「聞いているから幸い」です。

救われて、神の国の真理が分るものとなっていることに感謝しつつ、みことばに従っていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



13:18 ですから、種蒔きのたとえを聞きなさい。

13:19 御国のことばを聞いても悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪って行きます。道ばたに蒔かれるとは、このような人のことです。

13:20 また岩地に蒔かれるとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のことです。

13:21 しかし、自分のうちに根がないため、しばらくの間そうするだけで、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまづいてしまいます。

13:22 また、いばらの中に蒔かれるとは、みことばを聞くが、この世の心づかいと富の惑わしがみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。

13:23 ところが、良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。」

13:24 イエスは、また別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国は、こういう人にしたとえることができます。ある人が自分の畑に良い種を蒔いた。

13:25 ところが、人々の眠っている間に、彼の敵が来て麦の中に毒麦を蒔いて行った。

13:26 麦が芽生え、やがて実ったとき、毒麦も現われた。

13:27 それで、その家の主人のしもべたちが来て言った。『ご主人、畑には良い麦を蒔かれたのではありませんか。どうして毒麦が出

たのでしょうか。』

13:28 主人は言った。『敵のやったことです。』すると、しもべたちは言った。『では、私たちが行ってそれを抜き集めましょうか。』

13:29 だが、主人は言った。『いやいや。毒麦を抜き集めるうちに、麦もいっしょに抜き取るかもしれない。』

13:30 だから、収穫まで、両方とも育つままにしておきなさい。収穫の時期になったら、私は刈る人たちに、まず、毒麦を集め、焼くために束にしなさい。麦のほうは、集めて私の倉に納めなさい、と言いましう。』」

実を結ぶ者となりましょう。そのために、みことばを聞いて悟らないままにないようにしましょう。踏み固められた道のように、礼拝が単なる習慣になってしまわないように。分らなかつたら、祈って聖霊によって聞き、自分のこととして考えることです。またそのために、根をしっかりとほりましょう。みことばに根ざして行動し、また人生の基盤をみことばの価値観によって据えることです。さらにそのためには、惑わしになるものがあつたら、それを取り除けましょう。生活からもまた思いからも。

そして、「みことばを聞いて悟り」、多くの実を結びましょう。悟りたいという、謙遜で主に従順な思いの、「良い地」のような心でありましよう。

次のたとえも大切です。「天の御国」に「毒麦」があるのは奇異に感じるかもしれませんが、これは死後に行くところの天国ではありません。神の支配ということですから。この世は神様が支配していますが、悪や神への反逆が横行しているのは、それも神の権威の中にあるのであって、神様は悪が明かになるまで、放置しておられるという側面もあるということです。

人間の好き放題、不信仰が続けられるからといって、神をあなどってはなりません。世の中もそうですが、もしも自分の心の中に毒妻のようなものがあると気づいているなら、それを取り除けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



13:31 イエスは、また別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国は、からし種のようなものです。それを取って、畑に蒔くと、
13:32 どんな種よりも小さいのですが、生長すると、どの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て、その枝に巣を作るほどの木になります。」

13:33 イエスは、また別のたとえを話された。「天の御国は、パン種のようなものです。女が、パン種を取って、三サトンの粉の中に入れると、全体がふくらんで来ます。」

13:34 イエスは、これらのことをみな、たとえて群衆に話され、たとえを使わずには何もお話しにならなかった。

13:35 それは、預言者を通して言われた事が成就するためであった。「わたしはたとえ話をもって口を開き、世の初めから隠されていることどもを物語ろう。」

13:36 それから、イエスは群衆と別れて家にはいられた。すると、弟子たちがみもとに来て、「畑の毒麦のたとえを説明してください。」と言った。

13:37 イエスは答えてこう言われた。「良い種を蒔く者は人の子です。」

13:38 畑はこの世界のことで、良い種とは御国の子どもたち、毒麦とは悪い者の子どもたちのことです。

13:39 毒麦を蒔いた敵は悪魔であり、収穫とはこの世の終わりのことです。そして、刈り手とは御使いたちのことです。

13:40 ですから、毒麦が集められて火で焼かれるように、この世の終わりにもそのようになります。」

13:41 人の子はその御使いたちを遣わします。彼らは、つまずきを与える者や不法を行なう者たちをみな、御国から取り集めて、
13:42 火の燃える炉に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ぎしりするのです。
13:43 そのとき、正しい者たちは、天の父の御国で太陽のように輝きます。耳のある者は聞きなさい。

神の国、すなわち神様が支配されるということは、どんな小さく見えることからでも偉大なみわざが行われるということです。からしだねやパン種のような小さなものでも、神様にあっては大きな可能性があるのです。重要なことは、「天の御国」と言えるほどに、神様の権威があらわされているかどうかです。

神様をあがめ、神様の栄光を表し、神様の権威を認め、神様に王座を明け渡しましょう。それがすばらしいみわざの条件です。

毒麦のたとえのように、この世はやがて必ずさばかれるときが来ます。いつまでも今の状態が続くような感覚にとらわれがちですが、世の終わりがあることを忘れないで、それが希望となるような生き方をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

